

本年3月、警察庁は「焦点 第287号(平成29年版 回顧と展望;警備情勢を顧みて)」を発行し、同庁のホームページでもデータを公開している。同冊子では、第1章で「技術情報等の流出防止に向けて」と題する特集を組みつつ、第2章以降は、サイバー攻撃情勢、国際テロ情勢、外事情勢、公安情勢等が章立てされた構成となっている。その中で、JRに関係深いものとして特筆すべきは「第5章 公安情勢」の中の「極左暴力集団(P.29)」に関する掲載内容である。

## 警察庁が「焦点 第287号」を発行し、極左暴力集団「革マル派」のJR総連・JR東労組への浸透、運動の特徴を掲載！！

同冊子では「極左暴力集団」の解説として、「暴力革命による共産主義社会の実現を目指している極左暴力集団は、組織の維持・拡大をもくろみ、暴力性や党派性を隠し、社会情勢を捉えて、反戦・反基地運動や反原発運動等に取り組むとともに大衆運動や労働運動にも介入しています。一方で、引き続き調査活動に伴う違法行為や「テロ、ゲリラ」事件を引き起こすおそれがあります。」とある。そして「極左暴力集団」として最初に紹介されているのが「革マル派」なのだ。恐ろしい限りだ…。

### 組織の維持・拡大をもくろみ、暴力性や党派性を隠す「潜り込み」が特徴

革マル派本体の活動内容に関する記述を見てみよう。『(前略)6月に出版した「革マル派五十年の軌跡 第5巻」で、同派の創始者である黒田寛一前議長(故人)の論文を掲載し、引き続き、黒田前議長が提唱した理論に依拠した「組織建設」を訴えました。』とある。ご存じの方も多かろうが、この黒田氏とともに「革マル派」を創設した際の副議長が、松寄明元JR東労組会長(故人)である。

そして、革マル派本体の活動内容に関する部分は割愛するが、以下のように続く。『革マル派が相当浸透しているとみられる全日本鉄道労働組合総連合(JR総連)及び東日本旅客鉄道労働組合(JR東労組)は、JR東労組の組合員らによる組合脱退及び退職強要事件について、裁判の終結後も、同事件を「えん罪事件」、「組織破壊攻撃」と主張しています。革マル派は、今後も黒田前議長の「遺志」継承を訴えながら、組織の維持・拡大を図るものとみられます。』これは、JR東労組所属(当時)の「浦和電車区」の若手運転士(当時27歳)が、他の組合に所属する同僚とキャンプに行ったというだけで、約6ヶ月にもわたって吊るし上げられ、組合脱退と会社退職にまで追い込まれたという「強要罪」に該当する事件を指している。2012年2月、最高裁において、革マル派幹部であったJR東労組大宮地本の副委員長をはじめ、加害者7人の有罪が確定済みだが、まだこのような運動が展開されている…。

### 今や2万人に及ぶ脱退者が発生しているのは、警察がマーク・警戒するJR革マルとの決別！

全ての関係者は、世界に冠たる鉄道会社の労働組合の姿、労使関係のあるべき姿をよく考え、一刻も早く行動に移すべきだ。